

『風は南から』

令和7年度 校長室便り
(1月14日)(第22号)



2026年がスタートしました！

沖永良部島の年末年始は天気が悪く、残念ながら初日の出を拝むことはできませんでした。荒天が続いたので正月は箱根駅伝を見ていました。ご存じのように、結果は青山学院大学が新記録を樹立して優勝。前評判と1区が16位からスタートだったので、まさか青学が優勝するとは、想像していませんでした。5区山登りの黒田朝日さんが驚異的なスピードで前を追随し早稲田大学の「山の名探偵」こと工藤さんを抜き去って往路優勝を勝ち取ると、復路の5人も全員区間3位以内の見事な走りで、2位を大きく引き離して断トツの優勝。全員が昨年2月悪性リンパ腫で亡くなったチームメイトの思いも背負い最善を尽くし、最後まで粘り抜いた結果だと思いました。3年生の皆さん、大学入学共通テストまで残りわずかとなりました。It is not over until it is over. 終わりが来るまで終わりではありません。最後まで自分を信じて諦めず、粘り抜いてくださいね。沖高の生徒・職員一同、応援しています。



3学期 始業式

私は、プロ野球の監督を務めた故野村克也氏の言葉を借りて「超一流の高校生とは」という話をしました。野村さんは、選手を二流・超二流・一流・超一流・に分類しています。

順番に二流の選手とは、これまで素質だけでやってきて、それなりに通用したが、いずれ消えていく選手。超二流の選手とは、努力はしているものの、突き抜けることができない選手。一流の選手とは、実績を残すだけで、人間的な部分において評価されない選手。最後に超一流の選手とは、実力・実績はもちろんのこと、練習態度やチームへの献身、言動も含めて他の模範となる選手。この選手を「高校生」と置き換えて、「今の自分」と「目標とすべき自分」について考えてもらいました。当然目指とすべきは、「超一流の高校生」。青学の黒田朝日選手がキャプテンとして粘りの走りでチームメイトを鼓舞し、裏方としても仲間を支えたように、皆さんにも、たとえ困難な道であろうとも、諦めず努力し続け、周りの人や地域の人びとのことを思い、行動できる「超一流の高校生」を目指してほしいと思っています。

その後、進路指導部の中村先生からは、居心地のよい「Comfort Zone」から抜け出して、新たな気づきや学びを得る「Learning Zone」に自ら飛び込もうという話。交通指導係の甲斐先生からは、バイクを運転する前に気持ちをリセッタし、「事故は絶対に起こさない」と心に誓い、スピードを出しすぎず、交通ルールをしっかりと守った運転を心がけようという話がありました。最後に生徒支援部の上村先生からは、学期のスタートにはストレスはつきもので、きつい時は周りの人に相談すること、そしていじめやSNS上での誹謗中傷は絶対にあってはならないという話がありました。本年もそれぞれの成長を目指して努力し続けましょうね。



知名町「二十歳のつどい」



1月2日(金)あしひの郷・ちなで開催された知名町の「二十歳のつどい」に招待されて、参加しました。今年の対象者が、私が沖永良部高校に赴任した時の3年生だったので、楽しみにしていました。式は、本校卒業生による琉球舞踊のオープニングから、今井町長や来賓による祝辞、代表者挨拶、記念品贈呈と続き、最後に思い出の写真や映像が流れました。映像を見て、まさにコロナ禍の影響を受けた世代だということがよくわかりました。代表者の方の挨拶からは、苦難に負けずそれぞれが自分の道で努力し、将来は島のため貢献できる人材になり、恩返しをしたいという強い思いを感じました。式の後「校長先生元気ですか?」と声をかけてくれる卒業生もいて、本当に懐かしく感じました。卒業して2年、それぞれが確実に成長している様子が伺えて、自分も頑張ろうと正月から励まされた思いになりました。

下平川小学校「書き初め会」



1月10日(土)下平川小学校の西校長先生から依頼を受けて、安樂先生と本校書道部4名が、小学生の「書き初め会」のお手伝いをしました。土曜授業の2・3限目が「書き初め会」に割り当てられていて、1・2年生が硬筆で3年生以上が毛筆で学年に応じた題材にチャレンジしていました。

用紙の折り方から始まり、それぞれが黙々と課題に取り組んでおり、その集中力に驚きました。3年生からは縦長70cmの条幅用紙に書きますので、字のバランスを図るのは難しいですね。私も小学生の時に書道教室に通っていましたので、その当時のことを思い出しながら参観させてもらいました。

沖高生がお手本を書いたり、助言をしたりする姿に、西校長先生からは「高校生がその場にいてくれるだけで、小学生の頑張りが全然違いますよ」と評価していただきました。書道部の皆さん、本当にご苦労様でした。ご協力に感謝します。

消防出初式



知名町「消防出初式」

1月10日(土)13時より知名港で行われた令和8年知名町「消防出初式」に参加しました。昨年も参加しましたが、知名町内の分団員の方々が勢ぞろいし、眼前で中隊訓練や操法訓練、一斉放水を見られるのはめったにない機会であり、壮観です。団員の方々は、本業のお仕事を持ちながら土日を利用し訓練を重ねておられ、町内の安心安全のために献身的にご尽力されています。重い装具を身に着けて機敏に行動する姿には尊敬の念せん。英語でも消防士は「firefighter」と言いますね。私の亡くなった父も分団長として消防に30年以上従事し、國から叙勲を受賞していました。子どもの頃甲突川沿いで行われた鹿児島市の「出初式」を見に行ったことを懐かしく思い出しました。